

# みのお山麓保全委員会の活動 と里山の今日的な課題

～増えすぎたシカの問題、土砂災害リスク拡大など～



**NPO法人 みのお山麓保全委員会 2025.5.9**

# ～箕面の豊かな自然環境を 次代につなぐために～

- I. 箕面の山林の概況
- II. 箕面山麓の保全活動
- III. 里山の今日的な主な課題
  - 民有林を取り巻く課題
  - 増えすぎたシカの問題
  - 未来へつなぐ森づくり

# 箕面の山なみ景観と豊かな生態系

大都市近郊にありながら、**約1,100種の植物と3,000種を超える昆虫類**、多くの野鳥などの生きものが生息する**自然の宝庫**。美しい山なみ景観と豊かな生態系が育まれています。

箕面溪谷は江戸時代の半ばから紅葉の名所として知られており、溪谷沿いのカエデ林を残すなど、人の手が入ることなどで自然美が保たれています。

**※昭和31年(1956年)に「名勝・箕面山」に指定**

# I.箕面の山林の概況

箕面市山林面積2405ha／箕面市面積4790ha

※約5割が森林

うち民有林1838ha/2405ha (76%)

うち人工林346ha/1838ha(約19%、大阪府平均49%)

箕面市森林整備計画(R7/4/1-R17/3/31)

阪急箕面駅

山麓線

171号線

箕面萱野駅

大阪府箕面市 箕面

# ◇箕面の山麓部(市街地から見える部分)

## 明治の森箕面国定公園

昭和42年(1967)に指定約936ha

明治百年記念事業  
明治の森高尾国定公園とともに

平成10年(1998)

箕面市都市景観条例により

## 山なみ景観保全地区

指定 約380ha

- 近郊緑地保全地区
- 府営箕面公園
- 国定公園区域
- 山なみ景観保全地区
- 山裾景観保全地区

## 大阪府営箕面公園

明治31年(1898)に指定





## Ⅱ. 箕面山麓の保全活動

森の「恵み」、森林が持つ 多面的な機能を最大限発揮

四季折々に  
美しい山なみ景観

箕面のブランドであり  
関西・大阪のシンボル

水源涵養の機能

豊かな水を育み、蓄える  
農業を支える

生物多様性の保全機能

動植物の生息空間

災害を防止する機能

土砂の流出・土砂災害を防ぐ

地域資源としての機能

自然環境の保全と利活用の両立

文化・レクリエー  
ション的な機能

安らぎや心身の  
健康を増進

大気を浄化し地球

温暖化を防止する機能

林産物など

山の幸を生み出す機能

## ◇箕面山麓保全活動の取り組み

国定公園の南斜面一帯の豊かな緑でおおわれた部分

### ■市民アンケート(平6年/1994)実施(スタートライン)

… 緑を守っていくべき——約98%が回答

そのために「条例によって開発を規制すべき」、「開発される場合でもできる限り多くの緑を残すよう指導する」ことを望む…

平成9年(1997) 「箕面市都市景観条例」施行

平成10年(1998) 「山なみ景観保全地区」指定

⇒ 都市景観条例などによって建物等のデザイン、色、高さ、あるいは保全する緑地の配置などが定められ、貴重な樹林の保全が図られることになった。

## ～山麓保全アクションプログラム(2003年)に基づく活動スタート～

### ◇山麓保全活動の目標

山麓保全に必要な資金や労力を山林所有者のみが負担するのではなく、行政を含めた市民全体が役割を担い、保全に取り組む。

**三者(山林所有者・市民・行政)協働**

### <活動の目標>

・・・森林の多面的、かつ公益的価値を再確認して、その機能を最大限発揮させること。

# ◇三者協働の役割とは

それぞれの役割や特性を理解するとともに、相互に尊重、また補完しあいながら、対等な立場で、それぞれの持つ力を発揮して、課題の解決に取り組むこと。

## 1. 山林所有者

- ・適切な育成と管理、保全と活用
- ・次の世代に継承



## 2. 市民

- ・里山の「恵み」を再認識
- ・保全への理解と資金・労力などの提供

## 3. 行政

- ・山林所有者や市民の取り組みを支援
- ・防災、法規制などの役割

# ◇保全活動を行うための仕組み

## 1. 資金面で活動を支援

平成16年(2004)「山麓ファンド」設立  
令和2年(2020)「みのお山麓保全活動助成金」

## 2. 中間支援組織

みのお山麓保全委員会発足(2002)  
NPO法人みのお山麓保全委員会 設立(2003)

## 3. 情報や意見交換の場(プラットフォーム)

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会など

# 1. 資金面で活動を支援

## ・みのお山麓保全ファンド(2004/1～2020/3)

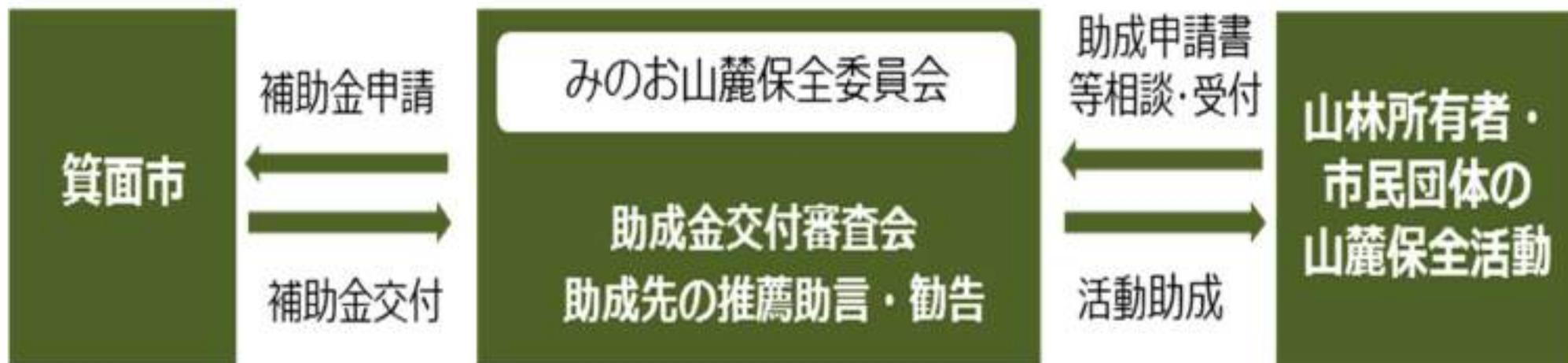
箕面市がりそな銀行に2億円を信託する

「公益信託みのお山麓保全ファンド」を設立

(市民による山麓保全活動を支援する分野では国内最初)

……→ 2019年度資金枯渇、ファンド終了

## ・みのお山麓保全活動助成金(2020/4～ )



# ◇「箕面山麓保全活動」の助成

## (1) 山林所有者の活動を支援

山林所有者が「自然緑地」指定に同意  
箕面市環境保全条例（1997年制定）第47条に  
基づき「自然緑地」として指定された山林  
※山なみ景観保全地区



山の手入れを行う山林所有者の活動に助成  
・・・助成金額：1㎡あたり 25円、上限25万円

## (2) 市民・団体の活動を支援

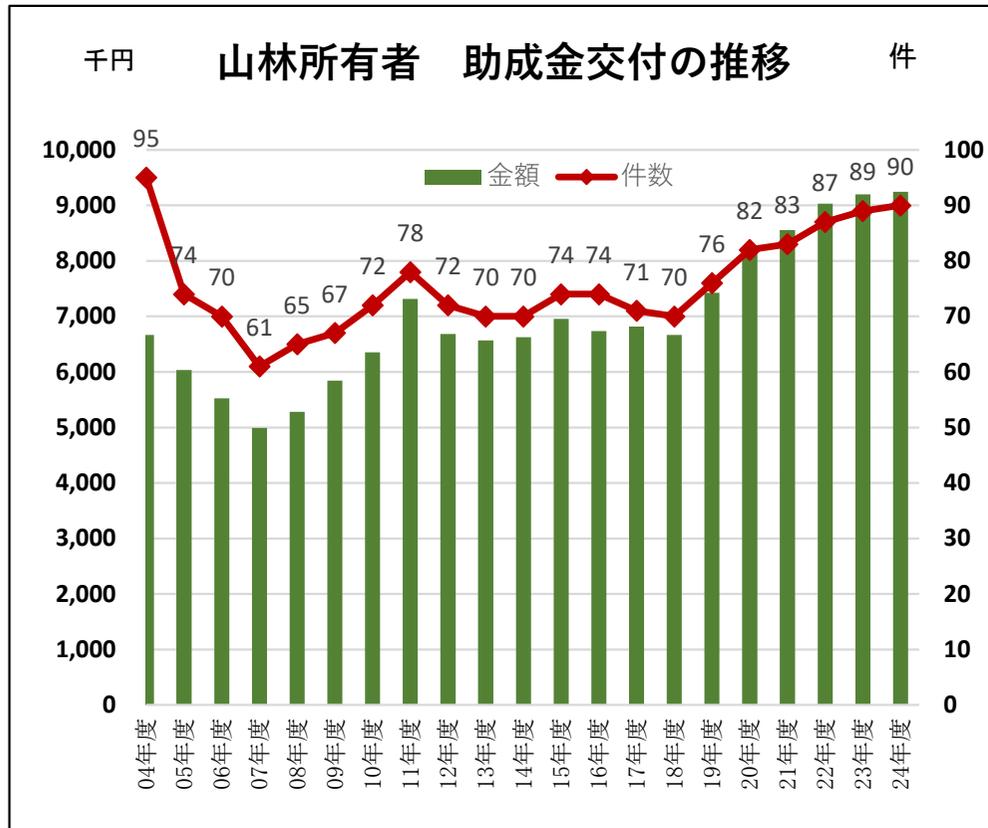
### 《活動の種類》

- ① 里山の管理
- ② 山の幸づくり
- ③ 里山とのふれあい
- ④ 山道の手入れ
- ⑤ 里山の自然保護
- ⑥ 山林の防災・保安・利用モラルの向上
- ⑦ 里山文化の育成
- ⑧ 山麓保全を支える人材育成
- ⑨ 山麓の学習・調査・研究
- ⑩ 山林の管理・活用
- ⑪ 山麓保全に関わる団体等の交流
- ⑫ 山麓保全のための資金確保
- ⑬ その他

助成金額  
上限 25万円  
毎年2月・8月に  
募集

# ◇助成金交付の推移

## <山林所有者>



2007年度以降、件数、金額とも増加傾向

## <市民団体>



件数はほぼ横ばい、金額はやや減少傾向

## 2. 「中間支援組織」

### NPO法人みのお山麓保全委員会

#### ～NPO法人の目的と箕面市との協働協定～

#### 【箕面の山麓保全のための協働協定】

\* 協定書の前文より

箕面市とNPO法人みのお山麓保全委員会は、箕面の誇りである緑の山麓の保全を図るため、「山麓保全アクションプログラム」の実現へ向け、協働の精神に立って、「箕面の山麓保全のための協働協定」を締結します。



山麓保全アクションプログラム

2002

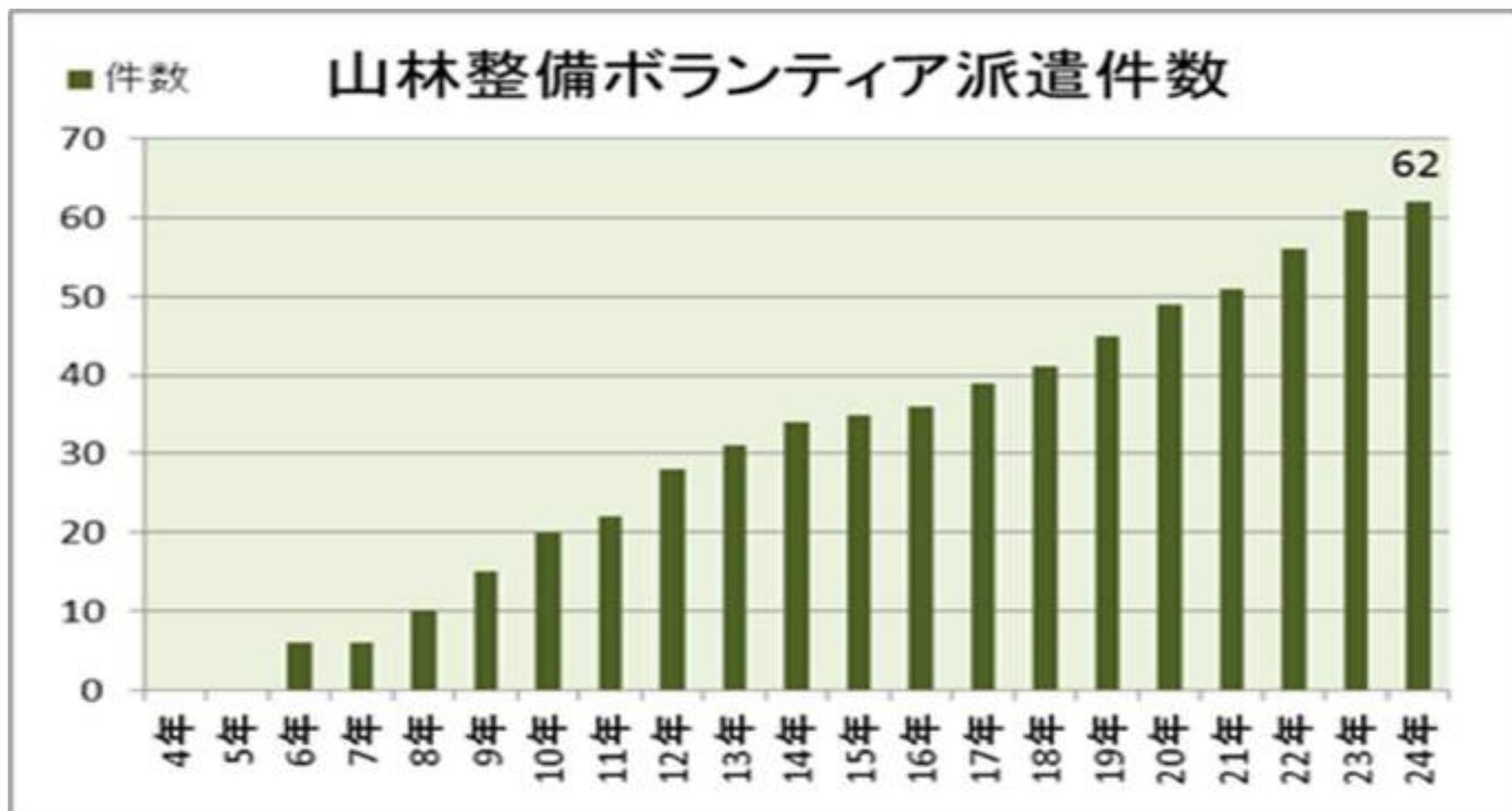
# NPO法人みのお山麓保全委員会

## 【主な活動】

- ① 山林所有者、活動市民団体への助成金交付事務
- ② 山林所有者の悩み相談
- ③ 山林整備ボランティア派遣  
「民有林山林整備サポート」
- ④ 市民参加や協力、理解を得るための取り組み  
「HP:山なみネット」「山とみどりのフェスティバル」
- ⑤ 山で活躍するボランティアや活動団体を育成  
「みのお森の学校」「ボランティア養成講座」

## ◇山林整備ボランティア派遣

高齢などで山の手入れができない所有者に代わって、山麓委員会が整備を行うボランティアを派遣する制度



# ◇明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会

協議会は、明治の森箕面自然休養林(箕面国有林)を対象に、**市民団体が中心となり、近畿中国森林管理局をはじめとした行政との協働の関係**により活動を行う組織

## ○自然休養林の保全

(シカによる食害の対策や生物多様性の保全など)

## ○自然環境に対する尊敬の心をもった利用活用

(安心・安全や環境教育など)



定点カメラによる調査



森の案内板の管理



ベンチの設置

# 明治の森箕面自然休養林 管理運営協議会 構成委員 (2025/4/1現在)

《市民団体委員》	《行政関係委員》
NPO法人 みのお山麓保全委員会 (事務局)	大阪府北部農と緑の総合事務所 みどり環境課
公益社団法人 大阪自然環境保全協会	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター
NPO法人 日本森林ボランティア協会	(国研)森林総合研究所 森林資源管理研究 グループ
清水谷をまもる会	箕面市教育委員会 教育センター
箕面観光ボランティアガイド	箕面市 環境動物室 天然記念物室
みのお里ぷら	箕面市 みどりまちづくり部公園緑地室
箕面ナチュラルリストクラブ	近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい 推進センター
箕面生物多様性会議(生きもの会議)	《相談役》
箕面の山パトロール隊	近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理 事務所
NPO法人とどろみの森クラブ	《オブザーバー》
	箕面公園管理事務所

## Ⅲ. 里山の今日的な課題(1)

### 民有地に関する課題

かつては、農業や生活と結びつき、人の手で  
管理・活用されていた箕面の里山

1950年代後半～

電気・ガスの普及、化学肥料の普及、住宅開発、  
ライフスタイルの変化

里山が農業や生活において必要とされなくなり、利  
用されなくなった ⇒ 放置林が拡大

## ◇山林所有者の悩み

- 勝手にゴミを捨てられるので困っている
- 自分の山がどこにあるか分からない
- 高齢なので山に行けない、手入れができない
- シカやイノシシが多くて困っている
- 大雨が降ると土砂崩れがおきないか心配
- 山を売りたい、寄付したいけど  
どうした良いかわからない ……など

## ◇山林所有者の意識変化

■遠隔地の所有者や相続を受けた次世代は、所有山林に対する意識が比較的低い

→ 山に愛着が少ない。小規模の場合、助成金も少なく価値をあまり感じない

→ 山を手放したいと思っている人が増えている

売却や寄付をしたい山林所有者のニーズの受け皿作りが急務になっている。

## ◇民有林の管理の状況

《増えている不明地主、境界不明確》



現状把握の必要性

《新たな共同管理の検討》



- ・行政による寄付の受け入れの検討
- ・使用権の設定（所有にこだわらない実質的な利用委託）と共同管理（労力提供、費用負担など）の仕組み作り …… 森林経営管理制度

## Ⅲ. 里山の今日的な課題(2)

### 「増えすぎたシカの問題」

除間伐して、林床に光が入り、  
下草が生えてきてもシカに食べ  
られてしまう。



↓

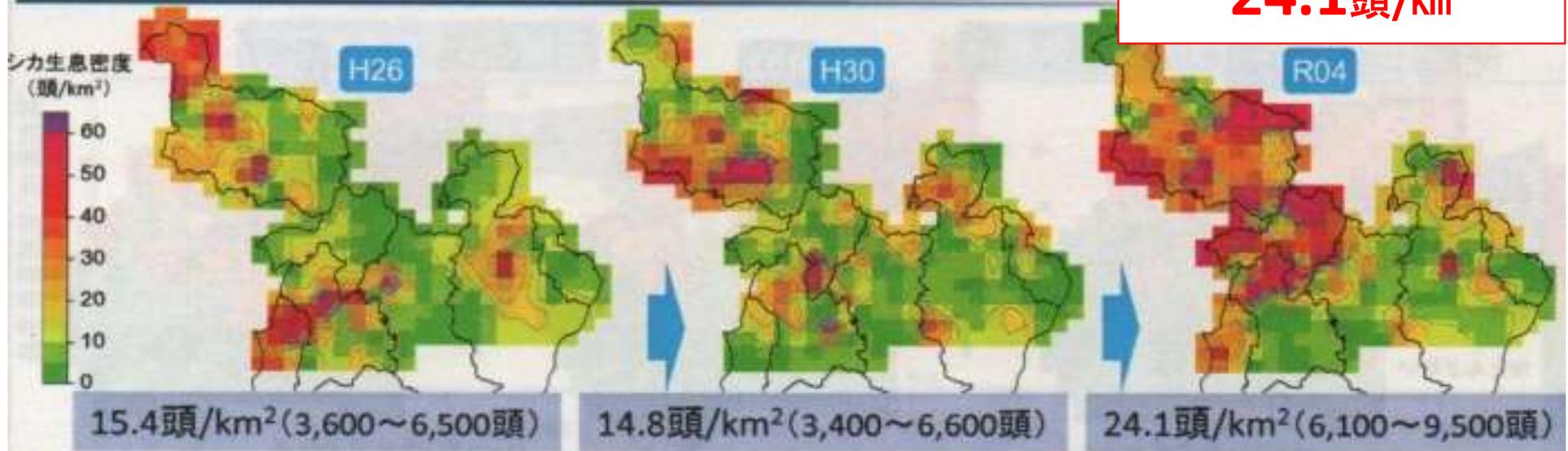
山の手入れをしても、里山が再生しなくなった。

↓

**シカの頭数管理を行わないと里山は再生しない。**

# シカ推定密度の変化（北摂全域）

令和4年(2022)  
北摂全域  
平均推定密度  
**24.1頭/km<sup>2</sup>**



- H28に一旦減少したものの、R01以降増加傾向が継続
- R04は比較的シカが少なかった能勢町東部や豊能町で大きく増加

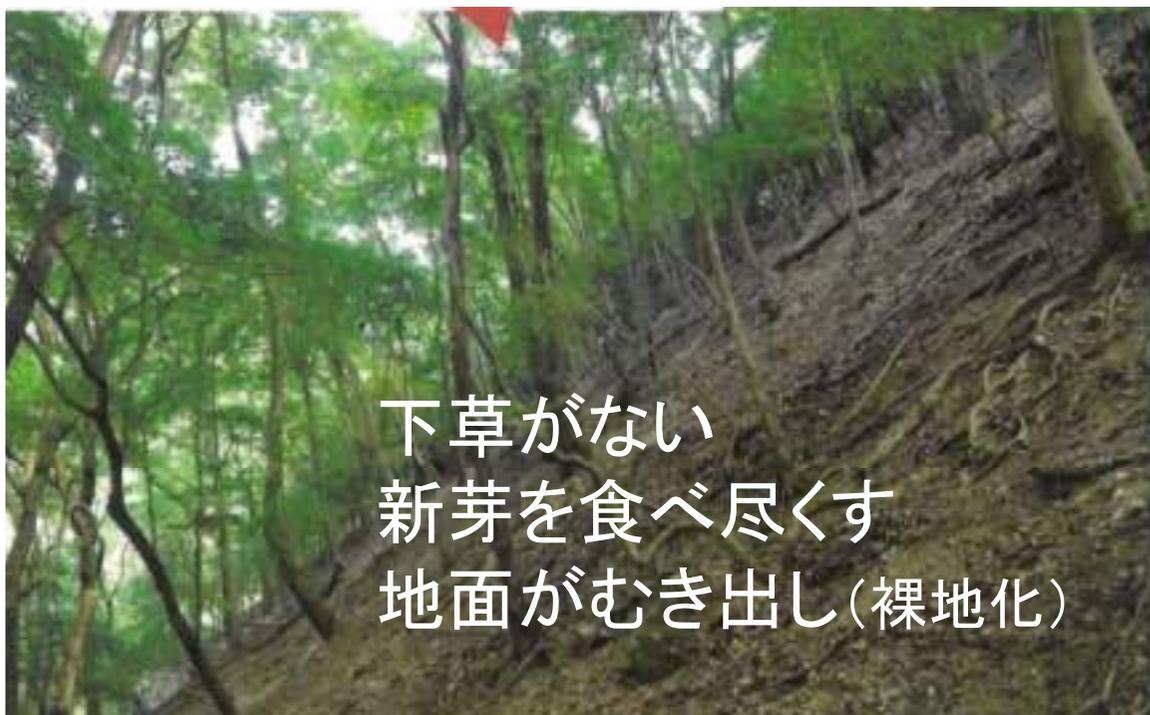


# シカによる問題：森林生態系への影響

シカの少ない森林  
(茨木市北部)



シカの多い森林  
(箕面市内)



下草がない  
新芽を食べ尽くす  
地面がむき出し(裸地化)

生態系機能の低下  
自然の恵みの劣化



# シカによる問題：農林業への影響

- 農業被害：シカによる被害増加が著しい

令和4年(2022) シカの農業被害額 全国で65億円 林野庁

- 林業被害：シカによる被害が約8割を占める(被害面積)

10頭/km<sup>2</sup>を超えると、農業被害が著しくなるといわれている



農林水産省「全国の野生鳥獣による農作物被害状況」より

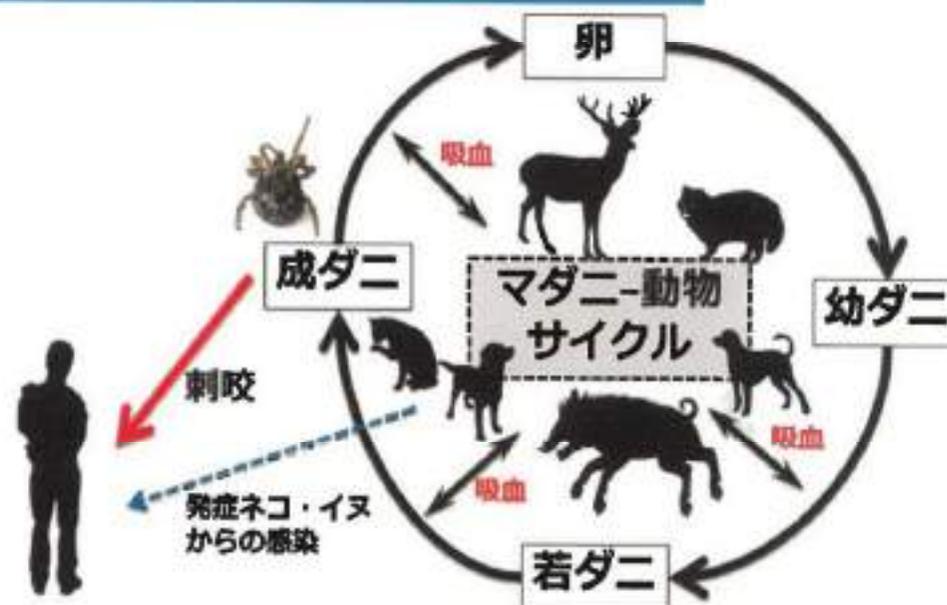


林野庁「野生鳥獣による森林被害」より

# シカによる問題：人獣共通感染症の拡大

- 重症熱性血小板減少症候群：SFTS
  - 2012年秋に初確認、全国に拡大
  - 致死率が非常に高い(27%との報告も)
  - シカやアライグマなどの野生動物が高い保有率

里山・農地でのシカの出没・獣害の拡大は  
感染症の発生防止の面でも大きな課題



出典：国立感染症研究所  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2342-related-articles/related-articles-433/6319-dj4339.html>

出典：高橋(2020) Neuroinfection25: 49-54



# 森林の劣化で懸念される土砂災害の増大

- 森林の持つ多面的な機能

- 土砂災害防止機能、水源涵養機能、生物多様性保全...



## 森林・耕地・裸地の土砂流出量の違い



資料：丸山晋三「森林水文」(筑波大学大学院) 1997年  
「フォレストサポーターズ」より <http://mori-zukuri.jp/>

森林植生の衰退による土壌流出、土砂災害の増加が全国的に懸念



大阪府も例外ではなく、現状把握とモニタリングが必須

# ハイキング道には、シカが嫌いな植物だけ

➡ 多様性の著しい後退



マツカゼソウ



イワヒメワラビ



アセビ



ダンドボロギク



タケニグサ

## ◇シカの食害から植生を守る対策

① **防鹿ネットの設置** (緊急対策)

② **モニタリング調査** (管理目標)

自動撮影カメラによる調査  
森林植生衰退度調査  
糞塊調査 など

③ **個体数管理** (本格的対策)

捕獲、駆除

④ **市民への広報や啓発活動**

研究フォーラムなど



防鹿ネット設置



自動撮影カメラ取付



研究フォーラム開催<sup>32</sup>

# 自動撮影カメラに映った哺乳類



# Ⅲ. 里山の今日的な課題(3)

## 未来につなぐ森づくり

### ◇災害リスクの増加

箕面山麓は、これまでたびたび水害や自然災害に苦しめられてきた



近年の例、昭和26年(1951)の水害・・・大滝近くで警察署長が殉死。昭和42(1967)・・・幼児・事消防団員4名が死亡  
自衛隊出動 など



近年の気候変動、温暖化、シカの食害による裸地化で  
災害リスク増加が危惧

# ○ 2017年、2018年、スギ・ヒノキ林を中心に、 台風の強風による大規模な倒木被害が発生



滝道/石子詰



大日駐車場周辺



ウツギ谷



こもれびの森

# ○ 行政による復旧工事 (国や大阪府による斜面復旧、倒木撤去など)



# ○ 市民による植樹や維持管理活動

こもれびの森(箕面市有林)では2020年から継続して、市民による植樹活動を実施。市民からの募金を活用



# ◇災害に強い森づくり

## 1. 2024年度、大阪府森林環境税による 取り組み

如意谷、新稲地区で新たに危険溪流の  
流木対策事業を実施



土石流発生防止のための治山ダム整備

## 2. 「協働」の取り組み

行政による取り組みだけでなく、山林所有者や市民を加えた「協働」により、災害に強い森づくりを推進していく必要がある。



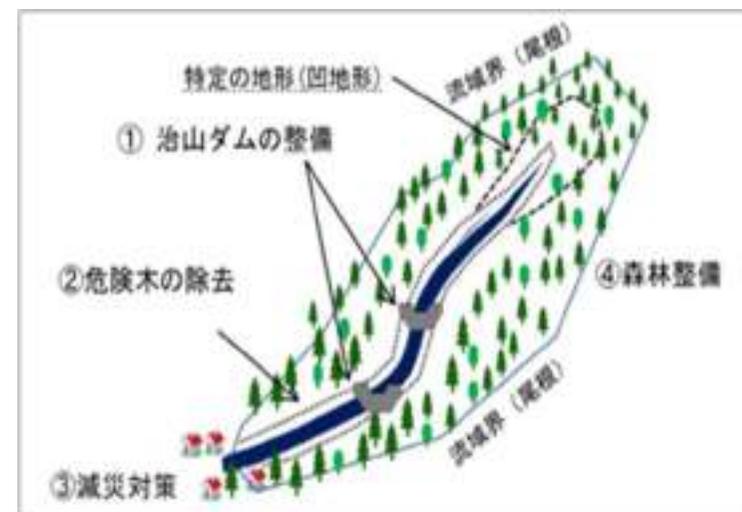
溪流沿いの危険  
木除去  
(大阪府)



山道崩れ防止のた  
めの防水シート  
(箕面市)



ボランティアによ  
る人工林の間伐  
(市民)



# ★ネットワークを活かした「協働」の概念

	立 場	活 動	目 的
共 同	同	同	同
協 同	異	同	同
協 働	異	異	同

立場の異なる「市民団体」や「行政」が同じ目的を  
かかげて、意見交換や情報の共有化を図り  
ながら、連携しながら異なる活動を行う。



箕面の森をみんなで守り、  
育て、活かす



ご清聴  
ありがとうございました